

地域のチカラ

数ある地域の中で、縁あって三豊市へ移り住むことになった皆さん。その縁をひも解いていくと、人を呼び込むチカラと、結びつけるチカラの存在がありました。

例えば、一人のキーマンから始まる地域の連携プレーによって、移住先が三豊市に決まる。そんな嬉しい出来事があったり。移住後も暮らしやすいようにと、地域のネットワークに誘って、暮らしを支えたり。移住した皆さんが気持ちよく地域に溶け込んでいく流れがあります。

今回は、人と人のつながりが生み出す「移住を支える地域のチカラ」をご紹介します。

人の縁がつないだ 2組の移住ストーリー

「海沿いに住んで、家具作りをしたい」。もともと香川の風土に好印象を抱いていた山下優弥さん・里英さん夫妻は、移住先を探し始めた今年1月、東京での移住イベントで、仁尾町在住の中村和良さんと出会います。中村さんは、県が取り組む「かがわ暮らし応援隊」として、地域の魅力を伝えるために参加していました。そこで仁尾暮らしの豊かさを聞いた山下さんは、中村さんに声をかけ、移住への第一歩を踏み出します。



▲山下さんに空き家を紹介し、住居の片付けを手伝った（左から）岡田龍宗さん、中村和良さん、森一恵さん

中村さんの案内のもと、山下さんは、2月、3月と仁尾町へ足を運び、空き家を見て回りました。この空き家の情報は、地元で詳しい岡田龍宗さんの紹介によるもの。4軒回った中で決めたのが、現在住む山の中の一軒家でした。

「日当たりが良いし、広い庭もある。趣味のギターを弾いても近くに家がないから、気にしなくていいな」。

そうして、空き家を気に入った山下さん。とりあえず住んでみようと、4月に仁尾町へ引っ越すことが決まりました。

しかし、家の中は古い布団や段ボール箱など、荷物が溢れている状態。中村さんと岡田さんは地元の森一恵さんを誘って、山下さんが引っ越してくる前に片付けに取り掛かります。

「3人で物を整理していったら、大家さんが用意してくれた4トンのコンテナが満杯になったよ」と振り返る中村さん。大家さんとの家賃交渉などもサポートし、山下さん夫妻が気持ちよく暮らし始められるように取り計らいました。「中村さんたちがいろいろ助けてくれるから、僕たちは何の心配もせずに来ることができました」



仁尾町
山下優弥さん・里英さん・いとるちゃん

平成29年4月、東京都から三豊市へ移住。6月に第一子となる娘のいとるちゃんが生まれ、現在は自宅の改装に奮闘しながら、地域の活動にも参加するなど、みとよ暮らしを満喫中。



中村さん、岡田さん、森さんの3人が山下さん宅に集まると、今後の家の改装のことや地域活動の話で盛り上がり、話題は尽きません



◀自宅の目と鼻の先に海が広がる。「夜、浜辺に出て、島の明かりや星の光を眺めるのも贅沢ですよ」と輝子さん



▶自宅近くの畑では、章さんが丹精込めて野菜づくり。白菜、キャベツ、カリフラワーを栽培中



◀城島さんも山下さんも父母ヶ浜の清掃には、移住後から毎月参加しています



仁尾町
城島章さん・輝子さん

平成 29 年 3 月、東京都から三豊市へ移住。中四国の瀬戸内海沿いで移住先を探していたところ、タイミングよく紹介された仁尾町の物件を見て移住を決意。念願の海沿いで暮らしている。



▲山下さん宅の庭にて。「ここで燻製やウインナーづくりをするのもええなあ」とアイデアが次々と浮かぶ皆さん



▲6月に生まれた娘のいとみちゃん、みんなに見守られながら、すくすくと育っています



▲ナチュラルな雰囲気の下山さん夫妻。「生活はがらりと変わりましたが、住み心地は最高です！」



▲庭にある菜園スペース。「野菜を植えて、ここも活用していきたい」と夢が広がります

若い夫婦をそつと支える みとよの世話人たち

「せっかくこっちに来てくれたんやけん、楽しく住んでもらわな」と岡田さんが言うように、中村さんと森さんの3人は、山下さん夫妻が移住してから、いろいろなサポートをしています。

「岡田さんは、トマトがようけできたけんとか、団子のお土産あげるわとか、毎日のように来てくれます（笑）。森さんにはベビーベッドをもらいました。みんな穏やかで優しく、すぐくありがた」と里英さん。3人が山下さんの自宅に集まったこの日も、それぞれの手には差し入れが。周りに助けてくれる人がいる。困ったときに頼れる人がいる。その支えが、初めての土地での暮らしをずいぶんと心強くしています。

積極的に地域コミュニティへ

また、中村さんたちは地域のイベントや活動に山下さん夫妻を誘い、コミュニティ内の顔つなぎにも一役買っています。竜まつりや松賀屋の夏祭りでは、地域の人に馴染んで楽しんでる山下さんの姿がありました。



▲「初めての子育てもみんながいるから何とかかなるかな」

「松賀屋の夏祭りでは、移住してきた同世代の家族と知り合うことができました。ここにきて半年も経たずに、たくさんの方の知り合いができたのは、みんなが紹介してくれたら、話しかけたりしてくれただけじゃ全然かないせんよ」。

そう控えめに話す優弥さんに、「山下さんはいろんな人と話せるタイプ。コミュニティに自分から溶け込んでいく姿勢がここでの暮らしを楽しむ秘訣かもね」と語りかける中村さん。

山下さん家族の「みとよ暮らし」は始まったばかり。ネットワークを広げつつ、家の改装や庭の手入れ、9月から始めた仕事など、やるべきことは満載です。

そして、「いつかはここに店舗や工房を作って、自分たちで仕事をしていきたい」と、将来に向けての夢が大きく膨らんでいます。

地域の人が協力して見つけた 海沿いの家に心動かされて

かがわ暮らし応援隊の中村和良さんがつないだ、もう一つの縁が城島さん夫妻でした。山下さん夫妻と同じく、今年1月の東京での移住イベントがきっかけです。

「海の近くに住みたい」と、移住先を探していた城島さん。三豊では思うような家が見つからなかったため、別の地域での移住を考えていたところ、中村さんから物件の連絡がありました。そこは目の前に海があり、住居の状態も良く、城島さんの希望に沿う条件。地元の菅磯夫さんを通して紹介された物件が、別の地に傾いていた城島さんの心を覆し、三豊への移住が決まりました。

地域で迎え入れる土壌

「移住してからは、近所の鴨田隆司さんが自治会に入る面倒を見てくれました。畑で野菜を作りたいと話していたら、土地のことで大家さんとの橋渡しもしてくれて中村さんには父母ヶ浜の清掃に誘ってもらいました。地域の人が仁尾の良いところを知って、楽しく暮らしてもらえれば」という



▲城島さんの移住のキーマンである中村さん(左)と鴨田隆司さん(右から2番目)、菅磯夫さん(右)

スタンスで接してくれるので、こちらでも気楽に接していけています」と城島さん。現在は、自治会の活動や父母ヶ浜の清掃の他、移住者同士の交流の場にも出向いていろいろな人とつながることに面白さを感じていると話す。

仁尾に住んで、海に沈む夕日を眺めたり、地域の新鮮な魚や肉、果物を味わったり。都会にはない魅力があると城島さん夫妻。「三豊に来たからこそ体験できる心豊かな日々」に幸せを感じています。移住した満足度は高いですよ」と微笑みます。



◀移住者同士で
助け合うことも

「美しい自然がたくさんある場所だと思います。都会ではカラスやスズメ、ハトくらいしか見ることはありませんが、財田には綺麗な鳥がたくさんいて驚きました。散歩中、雉はしょっちゅう見ますね。自然が豊かな証拠です」「ここは何もなく不便じゃない?」って聞かれますが、逆にここには何でもあると思います。小麦や塩、オリーブオイルが全て県内産のもので揃うのが凄いのと思います。卵や野菜も、何でも揃います」

地域の人のかわり方は?

「私の場合は、『みんな自治会に加入してるので、入ってみないか』と誘われました。入ってみると、すごくウェルカムな雰囲気でした。とても良くしてもらってます」

「困ったときはみんなが助けてくれますね。一人で屋根を修理しているとき、近所の人と一緒に手伝ってくれたり、重機で裏山を削ってくれたり、そういう人たちの存在は大きいですね」

「私は農業をしています。良い意味で叱ってくれます。『夏間は暑いから農作業したらダメ。昼寝しなきゃ』って」

どんな制度を利用しましたか?

「市の空き家バンク制度を利用しました。それとリフォーム補助金は助かりましたね。移住者にとって、まずは家を直すところからスタートですから」

「私は農業を始めたいと思っていたので、住居が決まるまでの間、医師住宅を利用しました。広くて部屋数も多かったです。この住宅をもっと効果的に使うべきだと思いますね。活用しないのはもったいないと思います」

移住者に共通する感想は?

「季節の果物や野菜を分けたいだくことが多くですね。仕事から帰ると、玄関に野菜が置かれていたこともありました。名前が書かれていなくて『この野菜を作っていたのは確かあのひとの人だから、どっちだろうな?』



◀「周りの人たちのアドバイスがありがたいですね」

「都会には農業を志す若者が多くいます。私はその応援をしたいですね。農作物を所得につなげる仕組みを作って、若者に農業で生活できるという安心感を持ってもらいたい。そして、仲間をどんどん増やしていきたいと思います」

これからの夢など

「話題に多く上がったのは、三豊の自然の豊かさや移住者を見守る地域の人たちの温かさです。ここにも、地域の一員として迎え入れ、新しい土地での暮らしを支えるチカラがありました」



移住者座談会

現在、新規就農を目指す人や自然に囲まれた暮らしを求める人の多くが三豊市財田町を移住先を選択しています。そこで今回、都会から財田町へ移住した8組の皆さんに集合してもらい、移住者さんのお宅で座談会を開催。移住者から見た三豊について話を聞きます。

▲集まった皆さんは、東京、神奈川、大阪、神戸など大都市で暮らしてきた人ばかり



第2 医師住宅▶

▲財田の農業を考える会の図子浩さん(左)と畑桂机さん(右)

話してくれました。

就農希望者を呼び込むために

第2 医師住宅の貸し出し

財田町には、移住して農業を始める人が多くいます。そこで「財田の農業を考える会」では、就農を希望する移住者を支援するため、財田診療所の医師が利用していた住宅を貸し出しています。

「今までに2組がこの住宅を活用して移住先を探し、農業を始めました」と話すのは、財田の農業を考える会の図子浩さん。

「新規に農業を始める人たちは、農業機械などの初期投資が大変な負担です。今後は各家庭で眠っている農業機械などを有効活用できる仕組みを整えていきたい」と活動への意気込みを話してくれました。



▲自治会費、ごみの出し方について自治会長さんに聞き取り調査

財田で見つけた移住者支援を紹介します

『暮らしの便利帳』

移住者の多くは、田舎生活を求めて都会からやってきます。しかし、いざ移り住んでみると、その地区独特のルールがあったり、たくさんのお寺があったりと、文化の違いに戸惑うことも少なくありません。そこで、まちづくり推進隊財田が始めたのが、自治会ごとの特色をまとめた『暮らしの便利帳』づくり。

自治会ごとのルールや出事、学校のPTA活動、地域にある商店や企業など、生活に密着した情報を幅広く集め、移住を考えている人たちに情報提供します。現在は作成中で、29年度中に公開される予定です。



県外から移住された皆さんへ 家賃の一部を補助します

市への移住・定住の促進を図るため、県外から市に転入した人へ住宅の賃借費用の一部について、補助金を交付します。

対象となる人

- 次のすべてを満たす人
- 平成28年3月1日以降に県外から市内に転入した人
- 移住に際し、新たに住宅の賃借契約を締結した人
- 市への転入前、3年以上県外に居住していた人
- 県税および市税に滞納がない人

対象とならない人

- 次のいずれかにあてはまる人
- 企業などの人事異動や就学などにより、市内に定住しないことが明らかである人
- 公営住宅や社宅などに居住している人
- 若者定住促進・地域経済活性化事業補助金、空き家バンクリフォーム・地域経済活性化事業補助金を受けたことがある人または受ける予定がある人
- 生活保護法に規定する住宅扶助を受けている人

補助金額

①住宅家賃補助金

対象となる月額は、「賃借料（管理費、共益費、駐車場使用料などを除く）－住宅手当など」×2分の1（千円未満の端数がある場合は、その端数を切り捨てた額）で、2万円を上限とします。

②住宅初期費用補助金

住宅の初期費用とは礼金、仲介手数料および家賃支払保証料です。

「賃貸借契約締結に関して要した初期費用の合計額－事業主からの手当」×2分の1（千円未満の端数がある場合は、その端数を切り捨てた額）で6万円を上限とし、1回限り支給します。

※補助金には右記以外の要件があります。

※申請書類については、事前にお問い合わせください。

▼申し込み・問い合わせ

田園都市推進課
73・3011



移住者交流会で 地域の輪を広げませんか



▲朝獲れ朝市



▲交流会(昨年の様子)

日時

11月5日(日) 午前9時～正午
※朝獲れ朝市への参加を希望する人は午前7時30分に仁尾マリーナへ集合

場所

松賀屋(仁尾町)
県外から移住した人
20人(予約優先)

対象

県外から移住した人

定員

20人(予約優先)

平成29年度香川県移住者交流会

～瀬戸内海の幸でランチ～

移住者や地域の知り合いがほしい人、香川県の暮らしの情報を知りたい人、交流会への参加をお待ちしています。

スケジュール(予定)
7:30 仁尾町漁業協同組合の朝獲れ朝市でせり体験(希望者のみ)
9:00 開会、自己紹介
9:15 魚料理づくり
11:00 食事をしながら交流
12:00 解散

▼申し込み・問い合わせ
田園都市推進課 73・3011

みとよに人を呼び込む 市の移住支援

空き家バンクで おうち探しのお手伝い

移住を考えたとき、まず気になるのが住まいのこと。憧れのライフスタイルを実現するための家選びは、移住に踏み切る大事なポイントです。そこで、市では家探しの窓口の一つとして、家を貸したい・売りたい人と、借りたい・買いたい人との橋渡しを行う「空き家バンク制度」を実施しています。平成24年度に開設してから、現在、成約実績は200件を超えています。雑誌『田舎暮らしの本(宝島社)』では、空き家バンクの成約数ランキング(平成28年)で全国2位になりました。

また、空き家バンクを通じて賃貸借・売買契約を結び、市内業者によってリフォーム工事を行う場合には、最大100万円の補助金を交付しています。こうした行政のサポートを含め、今回紹介した地域のサポートが移住への大きなチカラとなっています。歓迎する受け皿があつてこそ、移住者にとって住みたいまちになり、住みやすいまちになる。あなたも温かく迎え入れる一員になりませんか。



家選びの選択肢になる 空き家バンクの登録物件を募集中!

物件登録までの流れ

空き家バンクに登録したい!と思ったら

①三豊市役所へ連絡

田園都市推進課(73-3011)へご連絡ください。空き家バンク制度についてご説明します。空き家物件の所在地や、持ち主の連絡先などをお聞きます。

②市役所担当者が物件確認



市役所担当者が安全面で問題ないかどうか、外観を確認します。問題がなければ、次の手順へ。



▲空き家バンク登録物件イメージ

③担当不動産業者の選定

空き家バンクに登録した場合に担当になる不動産業者を選んでもらいます。基本的には、空き家バンク登録事業所(現在36件)の中から選定してもらいます。

④物件所有者・不動産業者・市役所担当者の三者による物件確認



物件の持ち主と不動産業者、市役所担当者の三者により、室内の状態や設備などを確認し、登録できる物件かどうかを判断します。このとき、物件の持ち主は、不動産業者に気軽に相談することができます。

⑤物件登録申請書の提出

物件の詳細や希望価格などを記入してご提出ください。

⑥審査・登録

物件登録申請書を確認審査した上で、「登録通知書」を送付します。

⑦インターネットでの情報発信を開始

三豊市への移住・定住ポータルサイト。
みとよ暮らし手帳

物件情報をインターネット専用サイト「みとよ暮らし手帳」で発信します。

